

高知工業高等専門学校					総合科学科										開講年度				平成31年度 (2019年度)									
学科到達目標																												
本校の創設以来の校是である「風格の高い人間・技術者の養成」を目標の第1に掲げ、高専の特色である早期一貫教育、実践的技術者教育という方針のもとに将来のエンジニアとしての基礎となる能力の修得を本科の主目標とし、それらを社会・地域のニーズに対応して応用・展開する能力や国際化に対応し得る能力の修得を専攻科の主目標として掲げています。																												
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分					
						1年				2年				3年				4年						5年				
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後		
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q	
一般	必修	化学3 (M)	0001	履修単位	1									2														
一般	必修	化学3 (E, Z)	0002	履修単位	1										2													
一般	必修	倫理	0003	履修単位	1									1	1													
一般	必修	国語III	0004	履修単位	2									2	2													
一般	必修	保健・体育III	0005	履修単位	2									2	2													
一般	必修	数学演習	0006	履修単位	1									1	1													
一般	必修	微積分II	0007	履修単位	3									3	3													
一般	必修	英語表現	0008	履修単位	1									1	1													
一般	必修	英語III	0009	履修単位	3									3	3													
一般	必修	日本語表現	1412	履修単位	1													1	1									佐藤 元紀, 翁志保子
一般	必修	哲学	1422	履修単位	1													1	1									佐々木 正寿
一般	必修	環境地理学	1428	履修単位	1													2										池谷 江理子
一般	必修	保健・体育IV	1451	履修単位	2													2	2									市村 梨乃, 澤本章一, 新田忠彦
一般	必修	総合英語I	1477	履修単位	2													2	2									赤山 幸太郎, 野中美賀子
一般	選択	法学A	1482	履修単位	1													2										菊池 直人
一般	選択	法学B	1483	履修単位	1														2									菊池 直人
一般	選択	経済学	1484	履修単位	1													2										宮村 武志
一般	選択	心理学	1485	履修単位	1														2									佐々木 昌太郎
一般	選択	世界文化論	1488	履修単位	1													2										佐々木 正寿
一般	選択	英語特論	1490	履修単位	1														2									
一般	選択	中国語会話	1491	履修単位	1													2										小谷 李子
一般	選択	中国文化論	1492	履修単位	1														2									小谷 李子
一般	必修	人間と科学技術	1523	履修単位	2															2	2							佐々木 正寿
一般	必修	総合英語II	1577	履修単位	2																2	2						ガインデニス
一般	選択	数学特論	1593	履修単位	1																2							川村 昌也
一般	選択	ドイツ語	1597	履修単位	2																2	2						塩見 由利

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	保健・体育III	
科目基礎情報							
科目番号	0005		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	実習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	総合科学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員							
到達目標							
【到達目標】 技術、練習方法、ルール審判方法について種目別の学習資料を参考に学習し、運動の特性を理解させ、各自が課題を持って練習計画を立て実践することにより、自己学習能力を高める。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	遅刻、欠席、見学をすることなく、全体の中心となり積極的に授業に取り組む。		遅刻、欠席、見学をすることなく、授業に取り組む。		遅刻、欠席、見学が多く、授業に参加をしない。		
評価項目2	技術が標準的なレベルに到達し、ゲームに活かすことができ、仲間に教える事ができる。		技術が標準的なレベルに到達し、ゲームに活かすことができる。		技術が標準的なレベルに到達できるように練習に取り組まない。		
評価項目3	グループ活動時に決められた練習、課題に取り組み、プラス仲間に指示を出したりアイデアを出すことができる。		グループ活動時に、決められた練習、課題に取り組む事ができる。		グループ活動時に参加をしない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	選択①、選択②：バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、卓球の中から1種目を選択する。選択③：バレーボール、バスケットボール、サッカー、卓球の中から1種目を選択する。（並行して持久走を行う）生涯にわたってスポーツを計画的・継続的に楽しみ、スポーツを生活の重要な内容として取り入れていくために、個人の興味・関心や能力・適性などに基づき、種目を選択する。自主的な運動の実践により、健康でスポーツを楽しむことの出来る能力、仲間と協力しリーダー力を身に付けさせる。						
授業の進め方・方法	各種目、基本的な技術や練習方法を伝え、個々もしくはグループで仲間と協力しながら練習に取り組み、ゲームを展開していく。ルールなどについてはプリントなどを配布したり、DVDを見せることにより、理解できるようにさせる。						
注意点	教材毎にスキルテスト及び記録測定を実施し、評価する。実技の成績を50％、平素の学習状況等を50％の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、通年科目における後学期中間の評価は前学期中間、前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション[1]		授業の流れ、要点を理解できる。		
		2週	選択種目①[2-4]		参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。		
		3週	選択種目①[2-4]		参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。		
		4週	選択種目①[2-4]		参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。		
		5週	スポーツテスト（外種目）		自己の体力水準を把握でき、仲間と協力して測定ができる。		
		6週	スポーツテスト（内種目）		自己の体力水準を把握でき、仲間と協力して測定ができる。		
		7週	選択種目①[7-11]		自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。		
		8週	選択種目①[7-11]		自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。		
	2ndQ	9週	選択種目①[7-11]		自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。		
		10週	選択種目①[7-11]		自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。		
		11週	選択種目①[7-11]		自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。		
		12週	水泳（3泳法の練習）[12-13]		クロール・・・水面で肘を高く上げることができ、呼吸をうまくすることができる。 平泳ぎ・・・キックと手のかきのリズムをつかむことができる。 背泳ぎ・・・小指から入水することができ、規則正しい呼吸ができる。		
		13週	水泳（3泳法の練習）[12-13]		クロール・・・水面で肘を高く上げることができ、呼吸をつまくすることができる。 平泳ぎ・・・キックと手のかきのリズムをつかむことができる。伸びる事ができる。 背泳ぎ・・・小指から入水することができ、規則正しい呼吸ができる。		
		14週	水泳（タイム測定）[14-15]		正しいフォームで、スピードのある泳ぎができる。		
		15週	水泳（タイム測定）（遠泳）[14-15]		仲間と励まし合いながら最後まで諦めず泳ぎ切ることができる。		
		16週					

後期	3rdQ	1週	選択種目②[16-19]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。
		2週	選択種目②[16-19]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。
		3週	選択種目②[16-19]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。
		4週	選択種目②[16-19]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。
		5週	選択種目②[20-23]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		6週	選択種目②[20-23]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		7週	選択種目②[20-23]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		8週	選択種目②[20-23]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
	4thQ	9週	選択種目③[24-26]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。
		10週	選択種目③[24-26] 長距離走	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。 長距離走・・・自分のペースで走りきることができる。
		11週	選択種目③[24-26] 長距離走	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。 長距離走・・・自分のペースで走りきることができる。
		12週	選択種目③[27-30] 長距離走	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。 長距離走・・・定められた距離を走りきることができる。
		13週	選択種目③[27-30] 長距離走	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。 長距離走・・・定められた距離を走りきることができる。
		14週	選択種目③[27-30] 長距離走	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。 長距離走・・・定められた距離を走りきることができる。
		15週	選択種目③[27-30]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	

評価割合

	試験	出席	相互評価	平素の学習状況	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	30	0	20	0	100
基礎的能力	50	30	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	微積分II
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	総合科学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	教科書：「新版 微積分Ⅱ」（実教出版） 参考書：「新版 微積分Ⅱ演習」（実教出版）					
担当教員						
到達目標						
【到達目標】 1. 媒介変数・極座標で表された関数について、導関数を求めることができる。 2. ロピタルの定理を用いて、不定形の極限値を求めることができる。 3. 基本的な初等関数のマクローリン展開を求めることができる。 4. 定積分の定義を理解している。 5. 少し複雑な関数の不定積分を求めることができる。 6. 媒介変数や極座標で表されるの図形の面積計算，曲線の長さを求めることができる。 7. 2変数関数の偏微分の計算ができる。 8. 重積分の計算ができる。 9. 積分順序の変更ができる。 10. 変数変換を行うことで重積分の計算ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	媒介変数・極座標で表されたさまざまな関数について，導関数を求めることができる。		媒介変数・極座標で表された基本的な関数について，導関数を求めることができる。		媒介変数・極座標で表された基本的な関数について，導関数を求めることができない。	
評価項目2	ロピタルの定理を用いて，さまざまな不定形の極限値を求めることができる。		ロピタルの定理を用いて，基本的な不定形の極限値を求めることができる。		ロピタルの定理を用いて，基本的な不定形の極限値を求めることができない。	
評価項目3	さまざまな関数のべき級数展開を求めることができる。		基本的な関数のべき級数展開を求めることができる。		基本的な関数のべき級数展開を求めることができない。	
評価項目4	定積分の定義を十分理解している。		定積分の定義を理解している。		定積分の定義を理解していない。	
評価項目5	やや難しい定積分の計算，媒介変数・極座標表示の図形の面積・体積，または曲線の長さを計算できる。		基本的な定積分の計算，媒介変数・極座標表示の図形の面積・体積，または曲線の長さを計算できる。		基本的な定積分の計算，媒介変数・極座標表示の図形の面積・体積，または曲線の長さを計算できない。	
評価項目6	さまざまな2変数関数の極限・連続性を調べることができる。		基本的な2変数関数の極限・連続性を調べることができる。		基本的な2変数関数の極限・連続性を調べることができない。	
評価項目7	さまざまな2変数関数の偏微分の計算ができる。		基本的な2変数関数の偏微分の計算ができる。		基本的な2変数関数の偏微分の計算ができない。	
評価項目8	さまざまな重積分の計算ができ，積分順序の変更ができる。		基本的な重積分の計算ができ，積分順序の変更ができる。		基本的な重積分の計算，積分順序の変更ができない。	
評価項目9	変数変換を行うことで，さまざまな重積分の計算ができる。		変数変換を行い，基本的な重積分の計算ができる。		変数変換を行い，基本的な重積分の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	媒介変数・極座標表示による関数，陰関数の微分法を学んだ後，不定形の極限値，べき級数展開，色々な不定積分と定積分の応用を学ぶ。2変数の微積分法，基礎的な偏微分の計算と2重積分の基本的な計算法を学ぶ。					
授業の進め方・方法	媒介変数・極座標表示による関数，陰関数の微分法，不定形の極限値，べき級数展開，色々な不定積分と定積分の応用，2変数の微積分法，基礎的な偏微分の計算と2重積分の基本的な計算法について講義し，基本的な問題について演習を行う。					
注意点	試験の成績を60%，平素の学習状況等（課題・小テスト・レポート等を含む）を40%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均，学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお，通年科目における後学期中間の評価は前学期中間，前学期末，後学期中間の各期間の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として，到達目標に対する達成度を試験等において評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	媒介変数・極座標表示の関数		媒介変数，極座標を用いて表された基本的な関数の導関数を求めることができる。	
		2週	陰関数		陰関数を理解し，陰関数の導関数を求めることができる。	
		3週	平均値の定理，不定形の極限値		平均値の定理を理解し，基本的な不定形の極限値を求めることができる。	
		4週	平均値の定理，不定形の極限値		平均値の定理を理解し，基本的な不定形の極限値を求めることができる。	
		5週	テイラーの定理		基本的な関数のテイラー展開を求めることができる。	
		6週	テイラーの定理		基本的な関数のテイラー展開を求めることができる。	
		7週	テイラーの定理		基本的な関数のテイラー展開を求めることができる。	
		8週	まとめと練習		既習事項について，基本的な問題が解ける。	
	2ndQ	9週	リーマン積分		定積分の定義を理解し，定義にもとづいて定積分の計算ができる。	
		10週	リーマン積分		定積分の定義を理解し，定義にもとづいて定積分の計算ができる。	
		11週	いろいろな不定積分		複雑な関数の不定積分の計算ができる。	

後期		12週	いろいろな不定積分	複雑な関数の不定積分の計算ができる。
		13週	面積、曲線の長さ、体積	媒介変数を用いて表される曲線で囲まれる図形の面積、回転体の体積、曲線の長さが計算できる。
		14週	面積、曲線の長さ、体積	媒介変数を用いて表される曲線で囲まれる図形の面積、回転体の体積、曲線の長さが計算できる。
		15週	まとめと練習	既習事項について、基本的な問題が解ける。
		16週		
	3rdQ	1週	2変数関数、偏導関数	2変数関数と偏導関数について理解し、基本的な関数の偏導関数を計算できる。
		2週	2変数関数、偏導関数	2変数関数と偏導関数について理解し、基本的な関数の偏導関数を計算できる。
		3週	2変数関数、偏導関数	2変数関数と偏導関数について理解し、基本的な関数の偏導関数を計算できる。
		4週	2変数関数の合成関数の微分法	基本的な2変数関数の合成関数の偏導関数を求めることができる。
		5週	2変数関数の合成関数の微分法	基本的な2変数関数の合成関数の偏導関数を求めることができる。
		6週	全微分と接平面	全微分と接平面について理解し、全微分の計算と接平面の方程式を求めることができる。
		7週	全微分と接平面	全微分と接平面について理解し、全微分の計算と接平面の方程式を求めることができる。
		8週	まとめと練習	既習事項について、基本的な問題を解くことができる。
	4thQ	9週	2重積分の定義	2重積分の定義を理解し、累次積分によって2重積分の値が求められることを理解する。
		10週	累次積分の計算	累次積分によって、基本的な2重積分の計算ができる。
		11週	積分順序の交換	基本的な積分順序の交換ができる。
		12週	積分順序の交換	基本的な積分順序の交換ができる。
		13週	2重積分と座標変換	座標変換を行って、2重積分の計算ができる。
		14週	2重積分と座標変換	座標変換を行って、2重積分の計算ができる。。
		15週	まとめと練習	既習事項について、基本的な計算ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3 前3,前4
				2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3 前5,前6,前7,前8
				関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3 前1,前2,前8
				不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3 前11,前12
				置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3 前11,前12
				定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	2 前9,前10,後3,後4
				分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3 前11,前12,後2
				簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3 前4,前6,前13,前14,前15
				簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3 前13,前14,前15
				簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3 前4,前6,前13,前14,前15
				2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	2 後1,後2,後3,後8
				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3 後4,後5,後8
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3 後1,後2,後3,後6,後7,後8
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	2 後9,後10,後11,後12,後15
				極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3 後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題・小テスト・レポート等	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本語表現
科目基礎情報						
科目番号	1412		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	教科書：「大学生のための日本語表現トレーニング：スキルアップ編」（三省堂）、適宜補助プリント					
担当教員	佐藤 元紀,翁長 志保子					
到達目標						
【到達目標】 1. 日本語文章の仕組みについて正確に理解し、説明できる 2. 文章の形式に従って、場面に沿った適切な文章を日本語で構成することができる 3. 場面にふさわしい言葉遣いや敬語を文章に用いることができる 4. 自らの考えを客観的に捉え、論理的な文章を書くことができる 5. 他者の文章を読み、適切に校正することができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	形式をふまえた上で、豊かな表現力を身につけて実用文を書くことができる。		形式に則って実用文を書くことができる。		形式に則って実用文を書くことが十分にできていない。	
評価項目2	場面にふさわしい言葉遣いや敬語を使い、自らの考えを論理的かつ十分に伝える文章を書くことができる。		場面にふさわしい言葉遣いや敬語を使い、自らの考えを論理的に伝える文章を書くことができる。		場面にふさわしい言葉遣いや敬語を十分に用いることができず、自らの考えを伝える論理的な文章を書くことができない。	
評価項目3	他者が記した文章を精読し、その表現の誤りについて適切に校正することができる。		他者が記した文章を読み、その表現の誤りについて校正することができる。		他者が記した文章を読み、その表現の誤りについて校正することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (E)						
教育方法等						
概要	日本語で効果的に書くために必要な技術を習得する。特に、構成を意識して文章を書き、それを互いに添削する取り組みを通して、日本語による適切な文章表現を身につける。国語Ⅰ～国語Ⅲで得た基礎知識・スキルを自ら発展させ、社会生活を営む上で必要な日本語表現力を養う。					
授業の進め方・方法	テキスト並びに補助プリントを使用して事前に自ら学習し、その内容をふまえて毎時演習形式にて対面授業を行う。互いに添削を行い、学習者自らが文章表現上の問題点を発見し、自らの文章表現に反映することを目指す。					
注意点	試験の成績を60%, 平素の学習状況等（演習問題への取り組みや提出物の状況を含む）を40%の割合で総合的に評価する。技術者が身につけるべき専門基礎として、日本語表現力の修得の程度を評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	導入：授業の目標・年間予定についての説明、自己紹介シートの作成		「大好きマップ」を用いて自己紹介シートを記入し、自分を客観的に見る視点を獲得する	
		2週	自己PR入門：演習を通じて話し手を導く「聴く」技術を発見し、聴き取った情報から友人の紹介文を作成する		自己紹介シートをもとにして、積極的傾聴法の演習を行い、よい聴き方とは何かを理解する 聴き取った情報をもとに、友人紹介文を作成することができる	
		3週	話し言葉と書き言葉：文章表現に適したことば遣いを学ぶ		話し言葉と書き言葉の違いについて理解する	
		4週	話し言葉と書き言葉：文章表現に適したことば遣を学ぶ		話し言葉を書き言葉に改めて文章を書くことができる	
		5週	書くべき内容を見つける：「何について書くのか」について考える		箇条書きで書くべき内容を10項目挙げるすることができる	
		6週	書くべき内容を見つける：「何について書くのか」について考える		挙げた項目の中から、書くべき内容を選択することができる	
		7週	段落とはなにか：日本語の文章における段落の役割と効果について学ぶ		段落構成等の条件に従って文章を書くことができる	
		8週	段落とはなにか：日本語の文章における段落の役割と効果について学ぶ		作成した文章の段落分けの妥当性について検討し、必要に応じて修正することができる	
	2ndQ	9週	論理的文章の書き方：序論		論理的文章の書き出しパターンを理解し、序論を書くことができる	
		10週	論理的文章の書き方：序論		執筆した序論部分を添削し、校正することができる	
		11週	論理的文章の書き方：本論		論理的文章における論の展開パターンを理解し、本論を書くことができる	
		12週	論理的文章の書き方：本論		執筆した本論部分を添削し、校正することができる	
		13週	論理的文章の書き方：結論		論理的文章にの結論に相応しい表現を理解し、結論を書くことができる	
		14週	論理的文章の書き方：結論		執筆した結論部分を添削し、文章全体を校正することができる	
		15週	総復習：前学期に習得した知識・スキルについて		既習の知識やスキルを活用し、学習内容の効果をまとめることができる	
		16週				
後期	3rdQ	1週	文章を構成するⅠ：日本語の文章構成に関する法則を発見する		日本語の文章を分解し、その構成（主語・述語）を取り出すことができる	

		2週	文章を校正するⅠ：日本語の文章構成に則った文章を作成し、グループで検討する	作成した文章の不自然な点等を指摘し、説明することができる 誤った文章を日本語の文章構成に則した正しい形に改めることができる
		3週	実用的なメール文章：5W1Hを意識した伝わりやすいメール文章を書く	内容が伝わりやすい実用的なメール文章を書くことができる
		4週	実用的なメール文章：5W1Hを意識した伝わりやすいメール文章を書く	作成したメール文章の誤りを指摘し、校正することができる
		5週	文章を構成するⅡ：日本語の文章構成に関する法則を発見する	オノマトペの働き・使い分けを集めてきたサンプルから発見し、その作用を理解することができる
		6週	文章を構成するⅡ：日本語の文章構成に関する法則を発見する	オノマトペの働き・使い分けを集めてきたサンプルから発見し、その作用を理解することができる
		7週	文章を構成するⅡ：日本語の文章構成に関する法則を発見する	オノマトペの作用をまとめて理解し、例文を作成しながら用法をまとめることができる
		8週	文章を校正するⅡ：日本語の文章構成に則った文章を作成し、検討する	オノマトペの作用をまとめた文章を読み、その内容を理解した上で、文章の妥当性について検討できる
	4thQ	9週	敬語の使い方：敬語の種類と正しい使い方を学ぶ	誤った敬語表現を正すことができる
		10週	敬語の使い方：敬語の種類と正しい使い方を学ぶ	場面に応じた敬語を用いることができる
		11週	文章を構成するⅢ：日本語の文章構成に関する法則を発見する	サンプルから副詞に関する法則を導き出すことができる
		12週	文章を構成するⅢ：日本語の文章構成に則った文章を作成し、グループで検討する	副詞の呼応を理解し、文章表現のなかで正しく使用することができる
		13週	エントリーシート・履歴書の作成：効果的なP R文の作成技術を身につける	履歴書の形式を学び、効果的なP R文の作成技術を理解する
		14週	エントリーシート・履歴書の作成：効果的なP R文の作成技術を身につける	自己分析をもとに、効果的なP R文を作成することができる
		15週	総復習：後学期に習得した知識・スキルについて	既習の知識やスキルを活用し、学習内容の効果をまとめることができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14,後13,後14,後15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前15,後3,後4,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後5,後6,後7,後8,後15
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前2,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後5,後6,後7,後8,後15
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前2,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後2,後5,後6,後7,後8,後13,後14,後15
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前2,後8,後15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後2,後5,後6,後7,後8,後12,後15
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前1,前2,後2,後8,後12,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前2,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後2,後5,後6,後7,後8,後15

評価割合					
	試験	提出物	相互評価	事前学習	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	40	10	10	10	70
専門的能力	10	5	0	0	15
分野横断的能力	10	5	0	0	15

高知工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境地理学
科目基礎情報				
科目番号	1428	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合科学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書：富田豊他『環境科学入門』（学術図書出版社）、教材：配布資料他			
担当教員	池谷 江理子			

到達目標

- 【到達目標】
1. 地球環境の形成の概略を理解できる。
 2. 地球温暖化、オゾン層破壊の実態と背景、対策について把握できる。
 3. 生態系と生物多様性の破壊と保全に向けての取り組みについて説明できる。
 4. 地球環境問題を地球と人間との関わりから理解し、課題を考えることができる。
 5. 地球と人類の共存条件について議論することができる。

ループリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	環境地理学の専門用語の意味を理解し、適切に説明できる。	環境地理学の基礎的な用語の意味を理解し適切に説明できる。	環境地理学の基礎的な用語を理解できず、適切に説明できない。
評価項目2	地球環境に関する専門的知識を理解し、適切に説明できる。	地球環境に関する基礎的知識を理解でき、適切に説明できる。	地球環境に関する基礎的知識が理解できず、適切に説明できない。
評価項目3	地球環境問題に関する専門的知識を理解し、適切に説明できる。	地球環境問題に関する基礎的知識を理解し、適切に説明できる。	地球環境問題に関する基礎的知識が理解できず、適切に説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A)
JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(a) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)

教育方法等

概要	学生諸君が地球環境と人間の関わりについて地理的視野を身につけ、将来、技術者として地球環境を守り、環境と共存しうる技術を担うための基礎知識とすることを目的としています。具体的には、地球環境問題のうち、地球温暖化、オゾン層破壊、生物多様性の減少など重要かつ喫緊の問題を取り上げ、実態と背景、解決に向けての取組みと課題などについて学びます。
授業の進め方・方法	基本的には講義形式で行います。プリント配布、プロジェクター利用により理解を促進します。発問・ワークショップを取り入れ、双方向授業を目指します。
注意点	試験の成績を80％、平素の学習状況等（課題・レポート等を含む）を20％の割合で総合的に評価する。学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	シラバスの説明。 1. 地球環境の形成 (1) 宇宙の形成	授業計画概要を理解する。宇宙の形成の概要を理解する。
		2週	1. 地球環境の形成 (2) 太陽系の形成と地球の誕生	太陽系の成り立ちと地球の誕生の概要を理解している。
		3週	1. 地球環境の形成 成の変化、オゾン層 (3) 地球環境の形成 大気組成の変化、オゾン層	誕生後の地球における大気組成の変化と背景、オゾン層形成について理解している。
		4週	1. 地球環境の形成 (4) 地球環境の特質、他の惑星との差異	地球環境の特質と他の惑星との違いを説明できる。
		5週	2. 地球温暖化の問題 (1) 地球温暖化の実態 (2) 温暖化のメカニズムと温室効果ガス	地球温暖化の実態と温暖化の仕組み、温室効果ガスの役割について説明できる。
		6週	2. 地球温暖化問題 (3) 温暖化の原因物質 二酸化炭素、メタン、フロン等	二酸化炭素、メタン、フロン等の温室効果ガスとしての実態や発生源について説明できる。
		7週	2. 地球温暖化問題 (4) 地球温暖化の影響 海面上昇、気象、健康	海面高度、気象、健康等に及ぼす温暖化の影響を説明できる。
		8週	2. 地球温暖化問題 (5) 国際的取り組み IPCC、京都議定書、パリ協定	気候変動に対する国際組織や取り組みについて説明できる。
	2ndQ	9週	3. オゾン層の破壊 (1) オゾンホール、オゾン層破壊のメカニズム	オゾンホールとオゾン層破壊のメカニズムについて説明できる。
		10週	3. オゾン層の破壊 (2) オゾン層保全に向けた世界の取り組み	オゾン層破壊防止を目指す国際的取り組みと条約について説明できる。
		11週	4. 生態系と生物多様性 (1) 生態系とその破壊、レッド・データ・ブック	生態系の定義及び生態系の破壊の進行とレッド・データ・ブックについて説明できる。
		12週	4. 生態系と生物多様性 (2) 生物多様性の減少	生物種の絶滅の原因と種の保存のために必要な要件について説明できる。
		13週	4. 生態系と生物多様性 (3) 種の絶滅と保存	生物種の絶滅の原因と種の保存のために必要な要件について説明できる。
		14週	4. 生態系と生物多様性 (4) 生物多様性を守る世界と日本の取り組み	生物多様性を維持するための国際的取り組みと内容について説明できる。
		15週	(総括) 地球環境問題の改善に必要とされているものは何か? ー持続可能な社会を目指してー	授業内容を踏まえ、地球環境の改善のための方策について討論できる。
		16週	前期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	5	15	100
基礎的能力	80	0	0	0	5	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	人間と科学技術
科目基礎情報						
科目番号	1523		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	参考書：アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』。その他、授業中に適宜紹介する。					
担当教員	佐々木 正寿					
到達目標						
科学技術の展開と現状について歴史的かつ具体的に学ぶことを通して、科学技術と人間・社会との関係のあるべき姿について基本的な理解を得、将来「広く深い知識と温かな心をもった人間・科学技術者」としていかなる状況におかれても主体的に考え行動できるよう、然るべき力量を身に付ける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	科学技術の歴史的展開と現状の概要を、多様な視角から理解できる。		科学技術の歴史的展開と現状の概要を理解できる。		科学技術の歴史的展開と現状の概要を理解できない。	
評価項目2	科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて、多様な観点から議論することができる。		科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて思索することができる。		科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて考えることができない。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(a) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)						
教育方法等						
概要	目覚ましく発展してゆく科学技術の光と影の部分を、主体的に学生諸君とともに考え抜く。「科学・技術とは何か」を問うメタ・サイエンスとしての科学哲学をベースに、倫理学、科学技術史、環境倫理、生命倫理など多角的な視点から、「21世紀の科学技術はどうあるべきか」を考察する。					
授業の進め方・方法	主としてフランクフルト学派の思想（アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』）およびハイデガーの思想（『存在と時間』、『技術への問い』）を参考にして、現代における科学・技術と人間との関わり方について講義し、21世紀を生きる市民として考えるべき事項については、学生自身に主体的に思索することを求めて意見交換を行う。					
注意点	成績評価の方法：定期試験(ca.100%)により評価する。基準：現代社会に特有の科学技術をめぐる問題状況について深く理解しているかどうか、また、そのような問題状況に対しどのように対処すべきかについて主体的に考えようとしているかどうか、こうした点について評価する。 学年成績は、前学期と後学期の成績を平均して算出するものとする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	現代社会の問題状況と倫理的課題についての説明		現代社会において科学・技術の関わる問題状況について知る。	
		2週	現代社会の問題状況と倫理的課題についての説明		現代社会において科学・技術の関わる問題状況について知る。	
		3週	科学技術倫理とハイデガーの技術論との関わり		現代においてハイデガーの技術論について知ることの意義を理解する。	
		4週	科学技術倫理とハイデガーの技術論との関わり		現代においてハイデガーの技術論について知ることの意義を理解する。	
		5週	ハイデガー哲学の概要		基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。	
		6週	ハイデガー哲学の概要		基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。	
		7週	ハイデガー哲学の概要		基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。	
		8週	ハイデガーの技術論		ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
	2ndQ	9週	ハイデガーの技術論		ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
		10週	ハイデガーの技術論		ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
		11週	ハイデガーの技術論		ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
		12週	ハイデガーの技術論と今後の社会的課題／意見交換		ハイデガーの技術論の思索をもとに、現代社会の課題に対して主体的に考察を深める。	
		13週	ハイデガーの技術論と今後の社会的課題／意見交換		ハイデガーの技術論の思索をもとに、現代社会の課題に対して主体的に考察を深める。	
		14週	(前学期末試験)			
		15週	(答案返却)			
		16週				
後期	3rdQ	1週	フランクフルト学派の立場とその思想		基礎的事項としてフランクフルト学派の概要を知る。	
		2週	フランクフルト学派の立場とその思想		基礎的事項としてフランクフルト学派の概要を知る。	
		3週	アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』について		基礎的事項として『啓蒙の弁証法』の概要を知る。	
		4週	アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』について		基礎的事項として『啓蒙の弁証法』の概要を知る。	
		5週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論		第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。	
		6週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論		第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。	

		7週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		8週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	4thQ	9週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		10週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		11週	第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		12週	第一論文「啓蒙の概念」の精読にもとづく高専自己反省	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		13週	第一論文「啓蒙の概念」の精読にもとづく高専自己反省	第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		14週	(卒業試験)	
		15週	(答案返却)	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前2,前4,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的方法で明確化できる。	3	前2,前11,前12,前13,後11,後12,後13
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	前2,前4,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13

評価割合

	その他（注意点参照）	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	80	80
専門的能力	0	0
分野横断的能力	20	20

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	総合英語II
科目基礎情報						
科目番号	1577		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Oxford English for Careers, Oxford University Press, Technology 1, Eric H. Glendinning, ISBN 9780194569507 (Units 8-15)					
担当教員	ガイン デニス					
到達目標						
1. Getting used to applying vocabulary and grammar structures learned in Junior High School and the first three years in Kosen through an technology related context, so students practise the language and skills they need for the job in real work situations 2. Practice reading, writing, listening and speaking skills students will need to communicate effectively when presenting ideas to non-specialists to develop problem-solving capabilities necessary for discussing latest technological innovations.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 <Vocabulary>	Vocabulary is effectively and appropriately used in context at CEF A2-B1 level.		Vocabulary is well used at CEF A2 level with some room for improvement.		Vocabulary is inappropriately used or at a level below CEF A2.	
評価項目2 <Grammar>	Grammar is effectively and appropriately used in context at CEF A2-B1 level.		Grammar is well used at CEF A2 level with some room for improvement.		Grammar is inappropriately used or at a level below CEF A2.	
評価項目3 <Reading>	Reading is effective and appropriate at CEF A2-B1.		Reading is appropriate at CEF A2 with some room for improvement.		Reading is at a level below CEF A2.	
評価項目4 <Writing>	Writing is effective and accurate at CEF A2-B1 level.		Writing is accurate at CEF A2 level with some room for improvement.		Writing is incoherent or at a level below CEF A2.	
評価項目5 <Problem-solving>	Effective and accurate demonstration of problem solving skills.		Effective demonstration of problem solving skills.		Incoherent or no demonstration of problem solving skills.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This full English medium pre-intermediate course (Units 8-15) will carry on to the basic fragments of language that students learned during their seven years in Junior High School and Kosen, and will address the concrete development of (1) career skills and knowledge, (2) the four basic language skills, and (3) language knowledge. The content will mainly target modern technology related topics and will aim the development of problem-solving skills in English, where students will be given the opportunity to creatively express ideas in group, pair, and individual settings. The course teaches English at CEF A2-B1 level and is relevant for ETS TOEIC L&R practice.					
授業の進め方・方法	This course will teach English in context making use of a content-based teaching method, so students practise the language and skills they need for the job in real work situations. Real-world profiles from genuine professionals will be included to offer authentic and engaging insights into various industries relevant for Kosen students. Extra facts, figures, quotations, and specialist terminology will be taught to develop career skills and language knowledge, alongside language skills. Activities will be designed for mixed-ability classes. Project work in the Student's Book, additional activities on the Student's Site, and essential vocabulary at the end of every unit will be used for revision.					
注意点	Tests will make up 60%, homework, in-class activities and participation 40% of the final grade.					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Course orientation to become familiar with materials, evaluation and content presentation.		Learn how to read and say symbols and characters.	
		2週	Unit 8 Become familiar with key terms for different forms of transportation.		Learn how to make predictions. Learn how to use corrective stress. Develop reading and listening for detail.	
		3週	Unit 8 Become familiar with key terms for different forms of transportation.		Learn how to make predictions. Learn how to use corrective stress. Develop reading and listening for detail.	
		4週	Unit 8 Become familiar with key terms for different forms of transportation.		Learn how to make predictions. Learn how to use corrective stress. Develop reading and listening for detail.	
		5週	Unit 9 Become familiar with key terms for skyscraper construction.		Learn how to describe safety signs and give safety advice. Learn how to stress long words.	
		6週	Unit 9 Become familiar with key terms for skyscraper construction.		Learn how to describe safety signs and give safety advice. Learn how to stress long words.	
		7週	Unit 9 Become familiar with key terms for skyscraper construction.		Learn how to describe safety signs and give safety advice. Learn how to stress long words.	
		8週	1st Semester mid-term test			

	2ndQ	9週	Unit 10 Become familiar with key terms in medical technology.	Learn how to locate information in a diagram and text. Learn to define relative clauses. Learn how to link words when speaking.
		10週	Unit 10 Become familiar with key terms in medical technology.	Learn how to locate information in a diagram and text. Learn to define relative clauses. Learn how to link words when speaking.
		11週	Unit 10 Become familiar with key terms in medical technology.	Learn how to locate information in a diagram and text. Learn to define relative clauses. Learn how to link words when speaking.
		12週	Unit 11 Become familiar with key terms for personal entertainment devices and video games.	Learn how to effectively listen for opinions. Learn how to give advice using should/shouldn't. Learn how to use reading skills to look for information.
		13週	Unit 11 Become familiar with key terms for personal entertainment devices and video games.	Learn how to effectively listen for opinions. Learn how to give advice using should/shouldn't. Learn how to use reading skills to look for information.
		14週	Unit 11 Become familiar with key terms for personal entertainment devices and video games.	Learn how to effectively listen for opinions. Learn how to give advice using should/shouldn't. Learn how to use reading skills to look for information.
		15週	Review of Units 8-11	Q&A and test preparation
		16週	1 semester test	
後期	3rdQ	1週	Review of Units 8-11	Report discussion.
		2週	Unit 12 Become familiar with key terms for computer use in the car industry.	Learn how to use the passive voice in context. Learn how to describe changes. Learn how to pronounce silent letters.
		3週	Unit 12 Become familiar with key terms for computer use in the car industry.	Learn how to use the passive voice in context. Learn how to describe changes. Learn how to pronounce silent letters.
		4週	Unit 12 Become familiar with key terms for computer use in the car industry.	Learn how to use the passive voice in context. Learn how to describe changes. Learn how to pronounce silent letters.
		5週	Unit 13 Become familiar with key terms in telecommunications.	learn how to accurately use the Past Simple and Present Perfect. Learn how to make simple explanations.
		6週	Unit 13 Become familiar with key terms in telecommunications.	learn how to accurately use the Past Simple and Present Perfect. Learn how to make simple explanations.
		7週	Unit 13 Become familiar with key terms in telecommunications.	learn how to accurately use the Past Simple and Present Perfect. Learn how to make simple explanations.
		8週	2nd Semester mid-term test	
	4thQ	9週	Unit 14 Become familiar with key terms in careers in technology.	Learn how to read and discuss about jobs in technology. Learn how to describe job requirements. Learn how to write a CV and develop interview skills.
		10週	Unit 14 Become familiar with key terms in careers in technology.	Learn how to read and discuss about jobs in technology. Learn how to describe job requirements. Learn how to write a CV and develop interview skills.
		11週	Unit 14 Become familiar with key terms in careers in technology.	Learn how to read and discuss about jobs in technology. Learn how to describe job requirements. Learn how to write a CV and develop interview skills.
		12週	Unit 15 Become familiar with terms in future technology.	Learn how to use phrasal verbs. Learn how to link phrasal verbs when speaking. Learn how to discuss future technology.
		13週	Unit 15 Become familiar with terms in future technology.	Learn how to use phrasal verbs. Learn how to link phrasal verbs when speaking. Learn how to discuss future technology.
		14週	Unit 15 Become familiar with terms in future technology.	Learn how to use phrasal verbs. Learn how to link phrasal verbs when speaking. Learn how to discuss future technology.
		15週	Review of Units 12-15	Q&A and test preparation
		16週	2nd Semester test	

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
評価割合						
			試験	課題	合計	
総合評価割合		60		40	100	
基礎的能力		60		40	100	

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	数学特論	
科目基礎情報							
科目番号		1593		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		総合科学科		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		プリント教材 教科書：高遠節夫・斎藤斉「新 応用数学」（大日本図書）					
担当教員		川村 昌也					
到達目標							
【到達目標】 1. 専攻科入学試験・大学編入学試験等の基本問題について、解答を自ら論理的に構成して、正確かつ簡潔に論述できる。具体的には、以下の既習事項の基本問題について、答案として適切な解答が書けることを到達目標とする。 空間内の図形の方程式、行列の演算、行列式、線形変換、固有値・固有ベクトル、行列の対角化、連立1次方程式、極限、導関数、増減表、接線・法線、高次導関数、媒介変数表示と導関数、不定積分・定積分、微分積分学の基本定理、図形の面積、立体の体積、偏導関数、2変数関数の極値、接平面、条件付極値問題、2重積分と累次積分、変数分離型の微分方程式、1階線形微分方程式、定係数2階線形微分方程式 2. 複素数と複素平面に関する基本的な事項を理解する							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		専攻科入学試験程度の問題が確実に解ける		専攻科入学試験程度のおおむね解ける		専攻科入学試験・大学編入学試験等の基本問題について、解答を自ら論理的に構成して、正確かつ簡潔に論述できない。	
評価項目2		複素数と複素平面について十分理解できる		複素数と複素平面についてある程度理解できる		複素数と複素平面について少しだけ理解できる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前半は高知高専専攻科入学試験・大学編入学試験を念頭に、専攻科・大学編入学試験で出題された問題を中心に問題演習・解説をおこなう。後半は複素平面に関する基本的な事項を履修する。					
授業の進め方・方法		授業中に配布するプリント（主に専攻科・大学編入学試験で出題された問題）の問題を考えてもらい、その後の解説を通して知識や理解を深めていく。					
注意点		試験の成績60%，平素の学習状況（課題）を40%の割合で総合的に評価する。定期試験は中間試験および前期末試験を行う。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		2週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		3週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		4週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		5週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		6週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		7週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		8週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
	2ndQ	9週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習		専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		10週	複素数の基礎(1)		複素数の基礎が理解できる		
		11週	複素数の基礎(2)		複素数の基礎が理解できる		
		12週	複素数の基礎(3)		複素数の基礎が理解できる		
		13週	複素数の基礎(4)		複素数の基礎が理解できる		
		14週	複素数の基礎(5)		複素数の基礎が理解できる		
		15週	定期試験問題の解説		試験問題が理解できる		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。		3	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。		3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。		3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

				微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				合成関数の導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

				簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

評価割合			
	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	ドイツ語
科目基礎情報						
科目番号	1597		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：ブーメラン・エルエー（朝日出版社） 参考書（必携）：独和辞典（「新アポロン独和辞典」（同学社）など、出版社はどこのものでも可）					
担当教員	塩見 由利					
到達目標						
1. ドイツ語の文法の概要を把握する。 2. ドイツ語の簡単な会話をする力を身につける。 3. ドイツ語特有の単語の変化を理解し、辞書を使って簡単な文章が読める。 4. 英語とは異なる背景を持つドイツ語の言語文化に興味を持つ。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	ドイツ語文法の概要を把握し、語彙を入れ換えて応用できる。		ドイツ語の文法の概要を把握する。		ドイツ語の文法概要が理解できていない。	
評価項目2	生活に必要な程度の語彙力が身につく。		基礎的な語彙力と挨拶表現などが身につく。		基本語彙が身についていない。	
評価項目3	基本的文型から語彙を入れ換えて様々に作文することが出来る。		基礎的な作文力が身につく。		基礎的な作文において構造が理解が出来ていない。	
評価項目4	自学で辞書を引き、児童文学程度の文章を読解できる。		教科書の例題を辞書を引いて読解できる。		文法を理解していないため辞書を引くことが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ほとんどの学生が英語以外の外国語を学んだことがないでしょうが、国際化が進み、英語文化圏以外の外国や文化に触れることも多くなってきました。英語以外の外国語を知ることで、視点も変わり、言語・文化に対する相対的な視野を得ることができます。ヨーロッパの中央に位置し、日本とも関係の深いドイツの言葉と文化を学ぶことで新しい世界に目を向けてほしいと考えています。					
授業の進め方・方法	おおむね教科書に従って、文法説明、音読、例題、講読、口頭設問などにより授業を進める。					
注意点	試験の成績の85%、平素の学習状況等（課題・小テスト・レポートを含む）を15%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、通年科目における後学期中間の評価は前学期中間、前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。到達目標に対する達成度を試験等において評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス説明、基本挨拶表現、アルファバート、発音の規則		基本の挨拶とアルファバートを覚え、発音の規則を理解する。	
		2週	人称代名詞、規則動詞の現在人称変化		人称代名詞を覚え、規則動詞の現在人称変化を理解する。	
		3週	語順、ja,neinの使い方、haben とsein動詞		ドイツ語特有の語順の規則を理解し、habenとsein動詞の活用を覚える。	
		4週	名詞の性、定冠詞と不定冠詞、複数形		名詞に性があることを理解し、定冠詞と不定冠詞のかたちを覚える。複数形の作り方を理解する。	
		5週	名詞の格の用法		定冠詞、不定冠詞の格変化表を覚え、格の用法を理解する。	
		6週	名詞の格の用法		様々な格の名詞の入った文章を読み、作文する。	
		7週	不規則変化動詞（1）		基礎的な不規則変化動詞の変化表を覚え、作文する。	
		8週	前期中間試験		教科書2課までの内容を理解する。	
	2ndQ	9週	不規則変化動詞（2）		基本的な不規則変化動詞の変化表を覚え、作文する。	
		10週	命令形		命令形の3つのかたちを理解し、作文する。	
		11週	定冠詞類		定冠詞類の格変化を理解し、様々な定冠詞類を覚える。	
		12週	不定冠詞類		不定冠詞類の格変化を理解し、様々な不定冠詞類を覚える。	
		13週	指示代名詞、疑問代名詞		指示代名詞、疑問代名詞を理解し覚える。	
		14週	人称代名詞		人称代名詞の3格、4格を覚える。	
		15週	前置詞の格支配		様々な前置詞を覚え、格支配を理解して読解、作文する。	
		16週	前期末試験		3～5課の内容を理解する。	
後期	3rdQ	1週	話法の助動詞、未来形		助動詞の意味と人称活用、助動詞構文を理解し、読解作文できる	
		2週	従属接続詞と副文		副文構造を理解し、基本的な従属接続詞を覚え、副文を含む文章を読解作文できる。	
		3週	分離動詞		分離動詞の使い方を理解し、基本的な文章を読解作文できる。	
		4週	再帰動詞		再帰動詞の特性を理解し、基本的な文章を読解作文できる。	
		5週	非人称代名詞es		非人称代名詞esを含む基本的な文章を理解する。	

		6週	形容詞の格変化	形容詞の格変化を理解し、表を見ながら文章を読解作文できる。
		7週	形容詞の格変化、形容詞の名詞化	形容詞の格変化表を見ながら文章を読解作文できる。形容詞の名詞化を理解し読解できる。
		8週	後期中間試験	6～7課の内容を理解する。
	4thQ	9週	動詞の3基本形	動詞の3基本形を理解し、基本的名不規則変化動詞の3基本形を覚える。
		10週	過去形	過去形の文章の作り方を理解し、基本的な文章を読解作文できる。
		11週	現在完了形	現在完了形の作り方を理解し、基本的な文章を読解作文できる。
		12週	定関係代名詞	定関係代名詞のかたちと使い方を覚える。それを含む文章を読解作文できる。
		13週	不定関係代名詞	不定関係代名詞のかたちと使い方を覚える。それを含む文章を読解作文できる。
		14週	比較級、最上級	形容詞・副詞の比較級、最上級の作り方、使い方を理解し、それを含む文章を読解作文できる。
		15週	補足文法	現在分詞、zu不定詞の概要を理解し、簡単な文章を読む。
		16週	学年末試験	8～10課の内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	

評価割合

	試験	その他	合計
総合評価割合	85	15	100
基礎的能力	85	15	100